

新施設に感嘆の声

湯之見病院の開院式

温泉を利用した九州で初めてのリハビリテーションセンター、水俣市立病院付属「湯之見病院」の開院式は、七日前十一時半から市立体育館で神田厚生大臣代理（河原社会保険庁総務課長）寺本知事代理（前川衛生部長）大島日本リハビリテーション学会長（東大教授）六反田順大教授はじめ熊本、鹿児島両県下から約二千人の来賓、関係者を招いて開かれた。

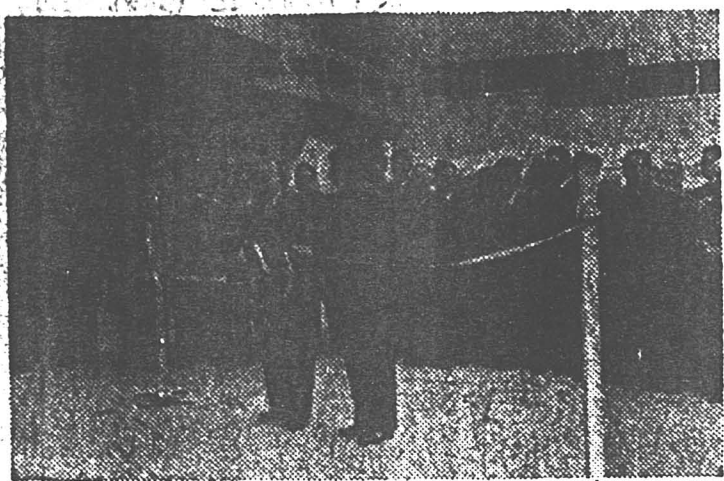
大橋同病院長あいさつ、橋本市長式辞、来賓祝辞、祝電披露のあと、設計、施工者へ感謝状を贈呈、ついで同病院の完成祝賀と水俣病者激励のため来水中の横濱朝鮮学院音楽部の祝賀演奏があった。祝賀に入った。

この開院式に先立って午前九時から来賓たちの見学のため病院を

開放したが、まず橋本市長と大橋院長が玄関前に張られた紅白のテープにハサミを入れたあと、參觀者たちは療育施設、病室などを見学したが、全国で初めてといわれる各種のリハビリテーション施設に感嘆の声をあげていた。

新病院は昨年二月一日に着工されたもので、竣工は二、三期工事

室などがある。二百ベッドのうち三十ベッドは水俣病患者のために確保されるが、残りは小児マヒ、中風など神経症状による手足の不自由な一般患者を収容するようになっていて、なお八、九日は新病院を一般見学のため開放する。



テープを切る橋本市長と大橋院長

をあわせて二億五千万円。鉄筋コンクリート四階建て（一部五階）延べ五千平方呎。本館と理療棟に分かれている。病室は四十一室で二百ベッド。全国で初めての水中治療テニールを備えた運動浴室や海水プール、ハイパータンク、遊能回復